

IPO銘柄 ウェーブロックホールディングス (7940・東証2部)

コード	投資単位	公開株式数	仮条件 (上限 PER)	主幹事証券
7940	100株	公募: 0.00万株 売出: 526.65万株 (OA78.00万株)	720円~750円 (8.2倍)	みずほ証券

■ 日程



壁紙をはじめとする各種合成樹脂製品のメーカー

■ 事業内容

壁紙などのインテリアや仮設資材や産業資材・包材といった各種合成樹脂製品の製造、加工、販売を手掛ける。主軸のインテリア事業では、住宅用壁紙が中心で、株主でもあるサンゲツ (8130) などブランドメーカー向けに製品を販売し、ブランドメーカーは壁紙の製品サンプルが掲載された見本帳を発行。一般消費者や工務店、デベロッパーなどの最終消費者は、その見本帳から壁紙を選択して購入する仕組みとなっている。編織事業では、合成繊維製網製品を製造。一般受託用防虫網や農業資材用網などを販売する。ポリエチレンやポリプロピレンの原材料から最終製品までの一貫生産体制を築き、生産効率を高めている。産業資材、包材事業では建築仮設材や業務用衣料、農業資材、工場用カーテンなどを展開。包材では食品用容器などを手掛けている。このほか、アドバンステクノロジー事業として金属調加飾フィルムも展開している。17年3月期第3四半期累計 (16年4~12月) の売上高構成比はインテリア事業が28.2%、編織事業が26.2%、産業資材・包材事業が33.2%、アドバンステクノロジー事業が12.4%となっている。

■ 特徴

09年まで東証2部へ上場しており、今回は約8年ぶりの株式市場復帰となる。非上場時代は、事業構造改革や新規事業の推進、海外展開などを推進して企業価値の向上に取り組んできた経緯がある。

アナリストコメント

■ 定量分析

17年3月期の連結経常利益は前期比65.9%増の15億円を見込んでいる。インテリア事業では生産効率の向上やコスト削減の効果で収益力が向上している一方、産業資材・包材事業では、販売数量の減少で事業収益が減速。市場の成熟感は強まっている。

■ 定性分析

IPOマーケットで人気化しづら、ファン্ডを大株主に持つ再上場案件であり、比較的初値買いの入りづらい東証2部への上場案件でもある。足元の利益成長率が高いものの、成長イメージを描きづらいことから、人気面では苦勞しそうだ。

■ 需給状況

仮条件の上限で試算した市場からの吸収金額は約45億円。荷もたれ感が意識される規模となっている。公募がなく、売出しのみのメニューであることから、ファン্ডの出口案件とのイメージが強く、積極的な初値買いが入りづらいこともネガティブ。
(小泉健太)

■ 類似企業

ウェーブロックホールディングス (7940・東証2部)	予想PER8.2倍 (仮条件上限)
東リ (7971・東証1部)	予想PER8.5倍
サンゲツ (8130・東証1部)	予想PER22.5倍

■ 引受証券

みずほ証券、野村證券、SMBC日興証券、SBI証券、岡三証券、丸三証券

業績・財務指標

	売上高 (百万円)	前年比 (%)	経常利益 (百万円)	前年比 (%)	純利益 (百万円)	前年比 (%)	EPS (円)	1株あたり 年間配当金(円)
15年3月期(実績)	24,656	▲4.4	1,339	85.6	1,031	8.7倍	93.5	0.0
16年3月期(実績)	25,055	1.6	904	▲32.5	365	▲64.5	33.1	0.0
17年3月期(会社予想)	26,400	5.4	1,500	65.9	950	2.6倍	91.1	0.0

	発行済み 株式総数(株)	総資産 (百万円)	純資産 (百万円)	資本金 (百万円)	BPS (円)	自己資本比率 (%)	自己資本当期 純利益率(%)
15年3月期	11,120,538	30,653	9,050	2,185	816.3	29.4	12.6
16年3月期	11,120,538	28,737	8,424	2,185	753.7	29.2	4.2

大株主上位 (上場前)

	氏名または名称	所有株式数(株)	所有割合(%)
1	エムシーピースリー投資事業有限責任組合	6,046,531	49.16
2	サンゲツ	2,470,000	20.08
3	ウェブロックホールディングス	1,376,673	11.19
4	ENTIRE HOLDING GROUP LTD.	876,027	7.12
5	木根 洵	513,307	4.17
6	福田 晃	250,000	2.03
7	青木 隆志	145,000	1.18
8	石原 智憲	110,000	0.89
9	王 志鴻	50,000	0.41
10	外山 達志	41,000	0.33

経営陣

役職	氏名
代表取締役 執行役員社長	木根 洵
取締役 執行役員常務	福田 晃
取締役	青木 隆志
取締役 執行役員管理本部長	石原 智憲
取締役	助川 達夫
取締役	王 志鴻
取締役	石井 健
取締役	小関 健
監査役	田中 博
監査役	松澤 英雄
監査役	岡野 真也

モーニングスターIPOレポートの読み方

特 徴

モーニングスター IPO^(※1) レポートでは、日本国内の取引所に新たに上場する銘柄を取り上げ、モーニングスターが位置する中立的な第三者としての立場から IPO に関する情報を提供いたします。ブックビルディング^(※2) が始まる前にレポートを提供することにより、IPO への参加を検討している投資家にとって有用な情報となるでしょう。モーニングスター IPO レポートには、企業名・コード・公開株式数など基本情報やブックビルディング期間・申込期間など IPO 日程のほか、モーニングスターの担当アナリストによるコメントを掲載いたします。

※1 IPO (Initial Public Offering)：新規株式公開。

※2 ブックビルディング：引受証券会社が機関投資家などの意見をもとに決定した仮条件を投資家に提示し、投資家の需要がどの程度あるかを把握することによって、マーケットの動向に即した公開価格を決定する方法。一般的に需要積み上げ方式と呼ばれる。

項目説明

■ 事業内容

新規上場する企業の事業概略を解説します。主要製品やサービスのほか、セグメント別の売上高構成比率などを記載。新規上場時の事業の状況や、先行きの見通しなども交えて分かり易くお伝えいたします。

■ 特徴

新規上場企業の設立経緯から現在の事業環境、ビジネスモデルや事業の強み、顧客動向、業績内容、海外展開、経営陣など様々な観点から特筆すべきエッセンスのみを抽出し、掲載いたします。

■ 定量分析

新規上場時に開示される前期、前々期の業績実績と今期の会社計画を用い、業績の成長性や収益性、財務安定性の面から新規上場銘柄を分析いたします。

■ 定性分析

新規上場銘柄が持つ事業の特性や事業環境、セクター動向などを踏まえ、定性的な評価をするほか、足元の株式市場の状況などを考慮して、マーケットから見た新規上場銘柄に対する見方なども掲載します。

■ 需給状況

公募・売り出しの株数と仮条件をふまえ、市場からの吸収金額を試算するほか、足元の新興市場の動向、類似企業の株価推移、ベンチャーキャピタルによる保有株放出の可能性なども考慮し、上場初日の需給状況を予想いたします。

■ 類似企業

新規上場企業と同じ業種に属する競合他社や類似企業を取り上げて PER を併記いたします。PER の水準は初値の参考指標として有効です。